

# MJ-First 国語 1

## 特色と構成

このテキストは、4月から中学1年生になるみなさんのために編集された中1国語への入門書です。小学生の復習と、中学に入学してから学習する内容の予習を目的として編集しています。

小説の読解2単元、説明文の読解2単元、論説文の読解1単元、古典読解の基礎1単元で構成されています。いろいろな文章を読むで、豊富な問題を解くことによって、中学国語を学習するための基礎力を養います。また中学から本格的に学習する古文の基礎についても学習します。

このテキストを学習することで、中学1年生からの国語学習がスムーズに進められることを願っています。

## 目次

① 物語・小説の読解(1)	2
② 物語・小説の読解(2)	6
③ 説明文の読解(1)	10
④ 説明文の読解(2)	14
⑤ 論説文の読解	18
⑥ 古典読解の基礎	22

6

古典読解の基礎

例文問題

A ある時、ぬずみ相集まりてせん議しけるは、「いつもかの猫といふいたづら者にほろぼさるる時、千たび悔やめども、その益なし。かの猫、声を立つるか、しからずは足音高く<sup>①</sup>などせば、かねて用心すべけれども、ひそかに近づきたるほどに、油断して取らるるのみなり。いかがはせん。」と言ひければ、古老のねずみ進み出でて言ひけるは、「詮ずる所、猫の首に鈴を付けておかば、やすく知りなん。」と言ふ。皆々、「もつとも。」と同心しける。「然らば、このうちよりだれ出でてか、猫の首に鈴を付けんや。」と言ふに、「我付けん。」と言ふ者なし。これによって、そのたびの議定事<sup>10</sup>終らで退散しぬ。

(「伊曾保物語」より)

\*せん議 〓 多人数で話し合うこと。

\*詮ずる所 〓 結局。

\*議定事終らで 〓 話し合いの決着がつかないで。

- B 疑心生暗鬼  
 C 黄河入海流

☐ 上の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

問一 〓 線①「猫といふいたづら者」、②「言ひける」を、それぞれ現代仮名づかいに直して書きなさい。

① [ ] ② [ ]

考え方 ①と②で仮名づかいが問題となるのは、八行の「いふ」「言ひ」と、「づ」である。これらをどのように直したらよいか、あるいは直さなくてもよいのかを考える。

問二 〓 線①「高くなどせば」の主語にあたるものを、文章中から書き抜きなさい。

[ ]

考え方 「足音高くなどせば」の主語と、「声を立つるか」の主語が同じであることを、文脈から押さえる。また、主語を表す「が」や「は」が省略されていると考えられるものを探してみる。

問三 〓 線②「退散しぬ」の口語訳として適当なものを、次から選びなさい。

- ア 退散しない      イ 退散した  
 ウ 退散しよう      エ 退散するべきだ  
 考え方 「ぬ」が、打ち消しではなく完了を表していることに注意する。

D 一寸、光陰、不可輕。  
 \*一寸||わずか。  
 \*光陰||時間。

ポイント 古文・漢文の基本知識

(1) 古文の特色

① 現代仮名づかいと歴史的仮名づかいの主な違い

a わ・い・う・え・お↓は・ひ・ふ・へ・ほ

例 問ひて 言ふ 教へ おほせつかる

b じ・ず↓ぢ・づ 恥ぢる いづれ

c い・え・お↓ゐ・ゑ・を

例 とのゐびと ゆゑをこがまし

② 主語や助詞が省略されることが多い。 例 狐(は)これ取りて

③ 現代語にはない言葉や、用法・意味の異なる言葉があるので注意する。

例 けり(過去を表す助動詞) あはれをかし

(2) 漢文の読み方

① 返り点(原文の左下にある記号)

a レ点: 「A<sub>レ</sub>B」なら、B↓Aというように、一字返って読む。

b 一・二点: 「A<sub>二</sub>BC」なら、BC↓Aというように、二字以上へだてて一から二へ返って読む。

② 送りがない: 送りがないや助詞は、原文の右下にカタカナでふられている。(読みがなは通常と同じようにひらがなで右にふる)

問四 Aの文章の主題に通じることわざを、次から選びなさい。

ア 溺れる者はわらをもつかむ イ 言うは易く行うは難し

ウ 千里の道も一歩から エ 三人寄れば文殊の知恵

考え方 古老のねずみの提案が結局は実行されずに終わったところから考える。

問五 BとCの漢文の書き下し文を、それぞれ書きなさい。

B [ ] C [ ]

考え方 Bは一・二点があるから、「疑心」↓「暗鬼」↓生の順に読む。C

はレ点があるから、「黄河」↓海↓入↓流の順に読む。

問六 Dの漢文は、何を説いたものか。次から選びなさい。

ア 時間の永遠性 イ 時間のわずらわしさ

ウ 時間の貴重さ エ 時間の測りがたさ

考え方 「軽んずべからず」とはどういう意味かを考える。

練習問題

◆ 1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔原文〕 池あるところの、五月長雨のころこそ、いとあはれなれ。菖蒲、菰など生ひこりて、水も緑なるに、庭もひとつ色に見えわたりて、曇りたる空をつくづくとながめくらしたるは、いみじうこそあはれなれ。いつも、すべて、池あるところはあはれにをかし。冬も、氷したるあしたなどは、いふべきにもあらず。わざとつくろひたるよりも、うち捨てて水草がちに荒れ、青みたる絶え間絶え間より、月かげばかりは白々と映りて見えたるなどよ。

〔口語訳〕 池のある家の庭の、陰暦五月の長雨のころは、A 趣深い。菖蒲や菰などが生い茂って、池の水も緑であるうえに、庭も一面に同じ緑一色に見えていて、曇っている空を一日中しんみりと眺めながら物思いにふけているのは、非常に情趣がある。いつでも、どんな場合でも、池のあるところはしみじみとして興味がある。冬でも、氷の張った朝の様子などは、B。わざわざ手を加えたのよりも、ほうっておいて水草が目立つほどに荒れ、青みをおびた水面の絶え間絶え間に、月光だけは白々と映って見えた風情などは、よいものである。

〔解説〕 筆者は、この文章において、さまざまな自然の趣を描いているが、一貫して C が、その中心的な舞台となっている。

\* 菖蒲、菰ともに植物の名。 (原文は清少納言「枕草子」より)

問一 — 線①「いと」の口語訳として A にあてはまる最も適当な言葉を、口語訳の文章中から三字で書き抜きなさい。

問二 — 線②「あはれにをかし」を現代仮名づかいに直して書きなさい。

問三 — 線③「いふべきにもあらず」の口語訳として B にあてはまるものを、次から選びなさい。

- ア 言いようもないほど情趣がある
- イ 言いようもないほど興ざめである
- ウ 言いようもないほど冷え冷えしている
- エ 言いようもないほど静かである

問四 — 線④「朝」のことを、原文では何とっているか。三字で書き抜きなさい。

問五 C にあてはまる言葉を、次から選びなさい。

- ア 曇っている空
- イ 月の出ている夜
- ウ 池のある庭
- エ 荒れた庭の草

## 5 論説文の読解

(P 18 ~ 21)

1 問一イ 問二ウ 問三エ 問四ア

問五a自分の力 b新しい物 c楽しみや喜び 問六働く 問七ウ  
**考え方** 問二「田一反歩を四人が一日がかりで田植えをして……刈り取って食べる」という行動からうかがえるのは、どのような考え方であるかを、「楽しい」ということばや、直前の「働く」ということは……判断してはならない」の部分から読みとります。 問三③段落でその答えが述べられています。 問四「苦勞させられた子ほどかわいい」という昔から言われていることをもとにして、「苦勞して農作物を育てることは喜びにつながる」という内容を導きだしています。 問七「生命ある物を育て」ということが、「楽しみや喜びを生む」という⑥段落の内容から、「自分の生命を育てる」ことが、心を豊かにすることを意味していることをつかみます。

2 問一合理的 問二時間ずつ 問三エ 問四ウ 問五A時間 B時計 問六(1)例 若い時に、「ああ、今日一日、無駄にしました」という絶望を感じることに。 (2)⑦真剣に暮らして ④貴重な栄養

問七イ 問八ア

**考え方** 問三この場合の「たち」は人の性質のこと。 問四得意そうな顔のこと。 問五□A、Bに「時間」「時計」のことばを実際にあてはめて読んで、意味が通るか確かめます。 問六(1)筆者は直前の文で「若い時の『ああ、今日一日、無駄にしました』という絶望は、……素敵な時間です」と述べています。(2)「すばらしいこと」になるのは「真剣に暮らして」いればこそです。 問七「こやし」とは肥料のことです。「無駄にすこした」ことも、人生の栄養になると述べているのです。 問八筆者特有の時間というものに対する考え方をしっかり読みとります。

## 6 古典読解の基礎

(P 22 ~ 24)

◆例文問題◆

問一a猫といういたずら者 b言いける 問二かの猫 問三イ 問四イ 問五B疑心暗鬼を生ず。 C黄河海に入りて流る。 問六ウ

**考え方** 〈Aの全訳〉ある時、ねずみたちがたくさん集まって話し合ったことには、「いつもあの猫といういたずら者にやられる際に、千回悔んでも何の役にもたたない。(我々を襲うとき)あの猫が、声を立てるか、そうでなければ足音を高くしてやってくるなら、前もって用心するのだけれども、そっと近づいてくるので、油断してしまい、捕られるばかりである。どうしたらいいのだろうか」と言ったところ、古老のねずみが進み出て言ったことには、「結局、猫の首に鈴をつけておけば、(猫が近づいてくるのを)容易に知ることができよう」と言う。皆は、「もつとも」と同意した。「それでは、この中からだれが出ていって、猫の首に鈴をつけようか」と言うと、「わたしがつけよう」と言う者はなかった。こういうことで、そのときの話し合いの決着はつかないで、(ねずみたちは)退散した。

◆練習問題1◆

問一非常に 問二あわれにおかし 問三ア 問四あした

**考え方** 問一「いと」は、たいそう、たいへん、とても、非常に、などと訳す。 問三口語訳をよく読んで、文脈から判断する。